

まきびと カルデアの牧人 ～校長だより～ No.29

関心を持つということ ～ 3学期終業式 ～

令和6年度も、社会ではさまざまな出来事がありました。私たちに関連のある社会の出来事では、複数回の選挙が実施されました。衆議院議員の選挙や雲南市でも市長選挙や市議会議員の選挙が行われました。4月から3年生になる皆さんは、誕生日を迎えると選挙権を持つことになりますが、今年は7月に参議院議員の選挙も予定されています。

選挙の時期になると、「投票率の低さ」や「若者の政治への関心の低さ」がよく話題に上がりますが、民主主義の国である日本では、すべての国民に政治に参加する権利があるので、若者の関心が低いことを残念に思う人も多いわけです。

しかし、以前、ある有名な政治家の方が高校生向けの講演で、「若者が政治に関心がないのは、悪いことではない。」と話しておられたのを聞いたことがあります。意外に思うかもしれませんが、「それだけ日本では、平和に暮らせているということだ。」とその理由を語っています。そのように聞くと納得できるように思います。

たしかに、世界に目を向けると、2022年から続くウクライナ紛争や、イスラエルでの戦闘などが連日のように報道されていますが、こうした地域では、日々の生活が政治と直結しているため、若者も政治に関心を持たざるを得ません。そう考えると、日本にいる私たちは、「政治に関心がなくても平和に暮らせる国で生きている」と言えます。でも、それで本当にいいのでしょうか。たとえば、健康について考えてみると、多くの人は、病気になって初めて健康の大切さに気づきます。政治も同じで、自分の生活に直接影響が出てからでは、手遅れになってしまうかもしれません。

ドイツのユダヤ人哲学者、ハンナ・アーレントは、ナチス・ドイツの裁判を傍聴した経験から、民衆が政治に無関心でいることは、「システムを無批判に受け入れる悪」だと警鐘を鳴らしました。つまり、「政治に関心がない」という状態は、自分の意思とは関係なく、誰かが決めたルールに従って生きることを意味するのです。

「関心を持つ」とは、「意識的に注意を向ける」ということであり、賛成・反対といった好き嫌いの話ではなく、今の状況をしっかり見届けるといことです。高校3年生が近づいてくると、進路や将来について考える機会が増えます。その中で、「もっと早く関心を持って準備しておけばよかった」と後悔することもあるかもしれません。先日の生徒会長選挙の演説で、「校則の見直し」を掲げてくれたことは、大変意義のあることであると思います。大切なのは、意識してさまざまな情報に触れ、多くの人と対話し、何事に対しても自分の考えを持つことです。その中で、何か興味を持てることがあれば、もしかしたらそれが皆さんの将来につながっていくことになるのではないかと思います。

